

新潟県納税貯蓄組合総連合会長賞 優秀

税で結びつく人の輪

長岡市立川口中学校

三年 丸山 はるひ

私は、平成十六年、中越大震災の年に生まれました。当時、私の住む地域は地震によりトンネルや道路等、様々な交通機関に甚大な被害を受けました。そんな中で、私を含む地域住民は、国からの支援にとっても助けられました。私の祖父と父は、まだ赤ん坊だった私や家族のため、自宅前の道路に、石灰で「おむつ」や「くすり」、「ミルク」等の文字を大きく書き、それを見た様々な人達が、私達の地域へ、たくさんの支援をしてくださいました。私は当時のことを覚えていませんが、家族や親戚からよくこの話を聞きます。その中で感じたことが、大きく二つあります。

一つ目は、税というのは、「私たちが思っている程マイナスなものではない。」ということです。中学生の私達が納めている最も身近な税として、消費税があります。消費税は、導入当初から少しずつ税率が上がリ、3%から5%、来年には10%にまで引き上げられる予定です。この話を聞いて、「うわあ、何だか嫌だな。」と感じた人は、きっと少なくないと思います。私も初めはそう感じていました。しかし、税の使わ

れ方を考えてみたときに、そんなマイナスな気持ちプラスの方向に変わったのです。例えば、私達の使っている教科書です。私達はこれを、無償で支給されています。なぜ無料で教科書を使うことができるのでしょうか。それは、税があるからです。私達が日々納めてきた税が、どのような形で国民のために使われているか、それがすぐに目で見てわかる、というのとはとても大切なことであるように思います。

二つ目は、税はとられているだけではないのだ、ということとです。当たり前と言えば当たり前ですが、前述の家族から話で、それを実感しました。震災の際、トンネル、道路といった私の住む地域の交通機関はほとんど壊れてしまい、まさに「陸の孤島」といった状態に陥っていました。本町に繋がる橋も陥落し、外との連絡がほとんどとれない状況にあつたとき、なんと自衛隊の方々が炊き出しに駆けつけてくれたそうです。断水で水が使えず、幼い子供を抱え倉庫でなんとか命を繋いでいた家族にとって、この炊き出し、風呂の存在はどれほど嬉しいものだったでしょうか。こういった話を聞いてから私は、確実に税に対する意識が変わりました。

税は、必ず誰かの役に立っています。「商品そのものの代金だけ払うんだったら良いのに。」なんて思わずに、少し立ち止まって考えてみてください。私達が税を納めることで、救われる命がたくさんあるはずですよ。また、私達も税に助けられていることが少なからずあると思います。持ちつ持たれつ、結局人々は税によって深く結びついているものなのではないでしょうか。私は少なくとも、そう思っています。